

力強さに欠けた 弱含みの状態



沖島港 / 近江八幡市

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、原指数の前年比は2か月連続の上昇、季節調整済指数の前月比は2か月ぶりの上昇となったため、季節調整済指数の3か月移動平均値は5か月ぶりに上昇したが、水準は依然として低い。

需要面では、百貨店・スーパー販売額は衣料品や家電機器が伸び悩んだが、ウエートの高い飲食料品が堅調に推移しているため、全店ベースでは3か月連続、既存店ベースでは4か月連続のプラス、また、大型店の中のドラッグストアの販売額は12か月連続の大幅プラスとなり堅調に推移している。さらに、乗用車の新車登録台数は3か月ぶりの大幅プラスとなった。一方、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は2か月連続のマイナス、新設住宅着工戸数は貸家と分譲住宅が大幅のマイナスとなったため、全体では3か月ぶりに前年を下回った。また、公共工事の請負金額も4か月連続の大幅減少となっている。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人数は11か月連続のプラス、一方、新規求職者数は2か月連続で前年を下回ったため、新規求人倍率、有効求人倍率ともに前月に比べ大きく上昇した。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は一部で前向きな動きがみられるものの、全体に弱含みの状態にあり、需要面では個人消費を中心に底堅い動きもみられるが、民間設備や住宅着工などの投資関連では伸び悩みの状態にある。したがって県内景気の現状は、緩やかな回復基調にはあるものの、力

強さに欠けた弱含みの状態が続いている。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、国内需要は比較的堅調に推移するとみられるが、円高の進展が輸出関連産業に悪影響を与えることに加え、中国をはじめとする新興国の景気低迷などから海外需要が弱含みの展開となるため、全体に伸び悩むものと考えられる。また、需要面では、個人消費については消費税率引き上げの再延期による消費マインドの改善効果はほとんどなく、景気の先行き不透明感、家計収入の伸び悩み、株安によるマインドの悪化といった懸念材料が根強い。また、民間設備や住宅着工などの投資関連では金利低下の効果は限定的と考えられる。したがって今後の県内景気は、緩やかな回復基調が続くものの、一進一退の弱含みで推移するものとみられる。

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、新興国経済減速の影響などから輸出・生産面に鈍さがみられるものの、基調としては回復を続けている。

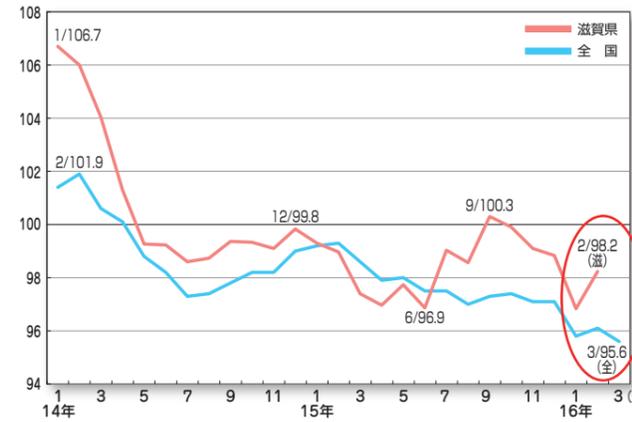
個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては底堅く推移している。設備投資は、緩やかに増加している。住宅投資は、持ち直しつつある。公共投資は、減少している。生産は、増勢が鈍化しており、輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。労働需給は引き続き改善しており、雇用者所得も緩やかに増加している。

【日本銀行京都支店：「管内金融経済概況」(6月10日発表)より】

「鉱工業生産指数」の3か月移動平均値は5か月ぶりの上昇

2016年3月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は111.7、前年同月比+3.6%で2か月連続の上昇、「季節調整済指数」は99.6、前月比+4.8%で2か月ぶりの上昇となった。この結果、季節調整済指数の3か月移動平均値(2月)は98.2、前月比+1.4%と、5か月ぶりに上昇。ただ、水準は依然、100以下の低水準で推移している。業種別(中分類)に季節調整済指数の水準をみると、「鉄鋼」や「金属製品」「窯業・土石製品」などは低水準となったものの、「はん用・生産用・業務用機械」や「化学」「食品」「その他」などは高水準となった。前月と比べると、「金属製品」や「電気機械」「プラスチック製品」などは低下したが、「はん用・生産用・業務用機械」や「輸送機械」「食品」などは上昇。

鉱工業生産指数の3か月移動平均値の推移(季節調整済値、2010年=100)



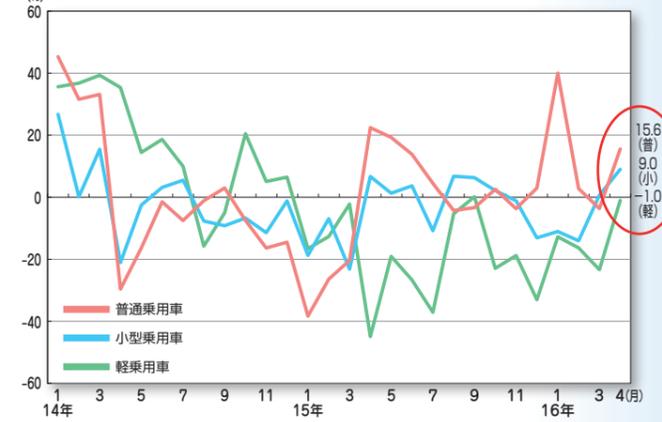
「乗用車新車登録台数」は3か月ぶりの大幅プラス

3月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は95店舗)」は21,617百万円、前年比+0.9%と、3か月連続のプラスとなっている。品目別にみると、衣料品は5か月連続マイナス(同-6.0%)、家電機器は4か月ぶりの大幅マイナス(同-12.7%)となったものの、ウエートの高い飲食料品は34か月連続のプラス(同+2.5%)、家庭用品も4か月連続のプラス(同+1.5%)、身の回り品は6か月ぶりのプラス(同+0.4%)となった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高は、全店ベースと比べると家庭用品が6か月連続のマイナス(同-3.3%)となったものの、他の品目はほぼ同じ状況で、全体では4か月連続のプラスとなっている(同+1.6%)。また、「家電大型専門店ドラッグストア・ホームセンター販売額(全店ベース=店舗調整前)」によると、3月の「家電大型専門店」(38店舗)は3,618百万円、前年同月比-6.8%で2か月連続のマイナス、「ホームセンター」(63店舗)も3,004百万円、同-1.2%で3か月ぶりのマイナスとなったが、「ドラッグストア」(164店舗)は4,996百万円、同+12.5%で12か月連続かつ大幅のプラスとなっている。

4月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「小型乗用車(5ナンバー車)」が2か月連続のプラスとなり(1,199

台、前年同月比+9.0%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」も2か月ぶりの大幅プラスとなったため(1,374台、同+15.6%)、2車種合計では3か月ぶりの大幅プラスとなった(2,573台、同+12.4%)。一方、「軽乗用車」は昨年4月からの増税の影響が長引き、低水準かつ7か月連続のマイナスとなっている(1,452台、同-1.0%)。

乗用車の新車登録・販売台数(前年同月比)

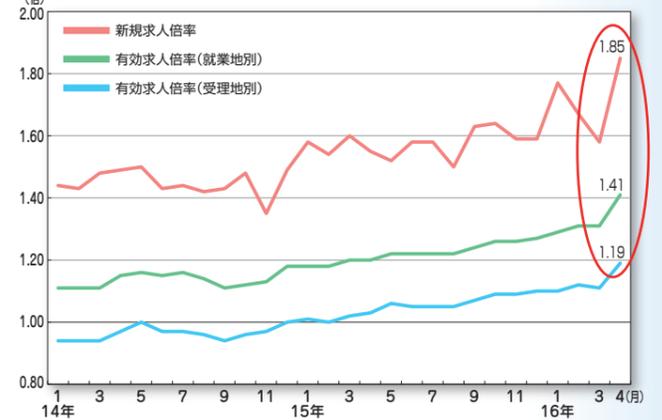


「有効求人倍率」は前月比大幅上昇

4月の「新規求人数(パートを含む)」は8,893人(前年同月比+5.8%)で11か月連続のプラス、一方、「新規求職者数(同)」は6,827人(同-10.8%)で2か月連続のマイナスとなっている。この結果、「新規求人倍率(パートを含む、季節調整済値)」は前月に比べ0.27ポイント上昇の1.85倍となり、「有効求人倍率(同)」も同0.08ポイント上昇の1.19倍となった。参考値として発表されている「就業地別」の有効求人倍率をみると、4月は前月に比べ0.10ポイント上昇の1.41倍で、公表値である「受理地別」の1.19を引き続き大きく上回っている。

また、4月の産業別「新規求人数」をみると、「製造業」が前年と同水準にとどまったものの(1,157人、同0.0%)、他はすべて前年を上回り、「医療、福祉」は7か月連続(1,851人、同+6.6%)、「建設業」も5か月連続(433人、同+14.9%)の大幅プラス、「卸売・小売業」(1,176人、同+4.8%)と「サービス業」(1,352人、同+8.9%)はともに2か月ぶりのプラスとなった。

求人倍率の推移(パートを含む、季節調整済値)



県内景気 天気図



凡例
 ☀️ 晴れ ☁️ 晴れ一時曇り
 ☁️ 曇り ☁️ 曇り一時雨 🌧️ 雨

前月比
 📈 上昇・好転 📉 横ばい
 📊 下降・悪化